



パテックフィリップでは毎年、希少なハンドクラフト技術にスポットライトを当てる一連のユニークピース、またはごく少数の限定製作のコレクションを発表している。通常これらのタイムピースはバーゼルワールドで発表される。2014年も例外ではなかった。ガラスとスチールから構成され、透明で光に溢れるパテックフィリップの新しいバーゼルワールド展示ブースを訪問した愛好家、コレクターたちは、比類のない装飾の施された腕時計、懐中時計、ドーム・テーブルクロックの展示を堪能したに違いない。しかしこれらは、その年の後半にベールを脱ぐことになる一大コレクションの接触到過ぎなかったのである。10月にブラン・レ・ワットのパテックフィリップ本社で行われた記念式典では、創業175周年を記念するタイムピース・コレクションに招待者たちは再び眩惑されることになった。

パテックフィリップが2つの主要な分野で業界をリードしていることは昔からよく知られている。ひとつは先端的な時計製作技術、今ひとつは芸術性溢れる最高の工芸技術による装飾である。しかし周知の事実であっても、これに改めて注意を向けることは無駄ではない。創業175周年記念コレクションは、パテックフィリップのこの2つの側面を完璧なまでに立証したのである。記念コレクションのマスターピース、グラッドマスタ・チャイムが、時計製作と結びついた最古の装飾芸術である彫金にこれほどの重要性を与えているのは偶然ではない。

彫金は、希少なハンドクラフトに捧げられた記念コレクションの中でとりわけ大きなウェイトを占めている。彫金は単独、またはジュネーブの偉大な伝統である七宝および七宝細密画などの他の技術と組み合わせて用いられている。記念コレクションの豊かさと同様に魅了された見学者は、このように特別なタイムピースの創作がいかに綿密な準備計画を必要とするかを知って驚きを新たにすることだろう。芸術的インスピレーションとクラフトマンシップの世界では、拙速は禁物である。

この壮大な共同プロジェクトを統括したサンドリン・スターン女史は、快く成功の秘密を明かしてくれた。「もちろん私たちは前々から計画を立てていました。でも何より信頼の置ける忠実な同僚とパートナーたちが、創業175周年という例外的なイベントのために全力を投入してくれれば分かっていました。彼らは、時間と才能のすべてを情熱的にこのプロジェクトに捧げました。これほどの成功を収めることができたのは、そのためです。こうして記念コレクションの創作は、2014、2015年の通常コレクションの製作を妨げることなく行われた。」



レマン湖と伝統

愛される伝統的な工芸技術に新たな生命を吹き込むためには、勇気と先見性が必要である。パテック フィリップ・クリエイティブ・ディレクターのサンドリン・スターン女史が、レマン湖にインスピレーションを得た、創業175周年記念タイムピース・コレクションの誕生を語る。

文 ジャン・フィリップ・アルム 翻訳 小金井 良夫



【62、63ページ】
七宝細密画マスター、アニタ・
ボルシェ女史の熟達した
技術により完成した
懐中時計「湖の夜明け」には、
七宝細密画とパイヨネ七宝が

組み合わせられている。
【前ページ】
クロワゾネ七宝、木象嵌、
七宝細密画、手彫金などの
希少なハンドクラフト技術に
よる腕時計。

【当ページ】
微細な粉末状の珪砂と
希少な油を混ぜた釉薬を
用いた七宝細密画（上、下）と
手彫金（中）で装飾された
懐中時計。

素材は決して用いませぬ。でも同時に
私たちは芸術家や熟練した職人たちの
創造性を鼓舞し、彼らの才能や技術を
試すことも重要と考えています。彼ら
の一部は、自分の専門分野で自主的に
技術革新を行います。私たちの側では
技術とそれを用いる職人たちを新しい
やり方で組み合わせ、その結果、世界初
の記録が生まれることもあるのです。
アニタ・ボルシェ女史は創業175周
年記念コレクション中の珠玉の作品を製
作したが、それは彼女の芸術の通常の
限界を超えるものであった。すべての
七宝技術に通じている彼女は、七宝細
密画とパイヨネ七宝という2つの技法を
選び、これらがほとんど融合するほど
緊密に組み合わせられた。ボルシェ女史は
自身のビジョンとアプローチを「湖の夜



明け」と題した懐中時計のケース全面、
および専用スタンドに適用した。この
タイムピースは、その全体がレマン湖を
描いたスイス人画家たちへのオマージュ
となっている。絵画の原作は、いずれも
フィリップ・スターン氏の個人コレクショ
ンに収められている。スターン氏がとり
わけ愛するルイ・ボディ作「コロニーの
朝」はケースバックに描かれている。文
字盤側には、5人の画家（アレクサンド
ル・ペリエ、エドゥワール・ヴァレ、ヴァ
ルター・マフリ、フェルディナント・ホド
ラー、ポール・クレール）の作品の一部ずつ
を完璧なハーモニーで組み合わせると
いう、技術的壮举を見ることができ
る。ボルシェ女史は言う。「仕事が進むにつ
れ、ますます文字盤の中を「航行」し
ているような気分になりました」。見

る者の眼は、ひとつの絵画から次の絵
画へと流れるように動き、無数の色合
いは互いに融け合う。40種類以上の基
本色がこのような効果を生み出して
いる。各々の絵画は縁取りされていない
ため、滑らかな流れを中断するもの
はない。作品の周囲を縁取る彫金を施し
たホワイトゴールドのベゼルには葉のモ
チーフの装飾小片が配置され、その各々
が個別に七宝で着色されている。
湖水を描いた青、緑、青緑色などの
微妙なグラデーションには、通常用いら
れる金箔の代わりに銀箔の装飾小片が
用いられた。「それが常軌を逸しており、
難しいのは分かっていますが、求める
効果を出すには銀箔を使わなければ
ならなかったのです。装飾小片と七宝
細密画を組み合わせる際の落とし穴は、

それぞれ要求される加熱温度が異なる、
ということである。しかし広範な知識と
数夜にわたる苦闘の末、ボルシェ女史の
大胆な試みは成功し、最終ポリッシュ仕
上げを経た作品は、レマン湖特有のデリ
ケートなニュアンスを見事に描き出して
いた。「自然から受ける感じそのままを
表現できました」とボルシェ女史は語る。
伝統的な帆船、港、湖畔、街並みと共
に描かれたレマン湖が、創業175周年記
念コレクションのテーマとなっている。中
でも最も卓越した作品を挙げてみよう。
「湖上にて」と題したカラトラバ腕時計
のセット中、七宝細密画の芸術を体現し
た2点の文字盤のテーマは、スイス人画
家フランソワ・ボンシヨンの絵画作品から
採られている。空と湖水の一部のビジュ
アル効果は、背景の部分にあらかじめ





彫金を施すことにより得られている。

「レマン湖の帆船」と題したカラトラバ腕時計4点セットの文字盤も、フィリップ・スターン氏個人コレクションの絵画からインスピレーションを得ているが、こちらはクロワソネ七宝が用いられている。全長40〜70センチにおよぶ直径0・05ミリのゴールドのワイヤーでつくられた囲いの中に糊薬を施している。

「湖畔の風景」と題したカラトラバ腕時計4点セットもレマン湖の帆船を描いており、古い絵葉書からインスピレーションを得ている。文字盤に施された木象嵌による装飾には、約30種類の木目材から切り抜いた最大166個の木製パーツが用いられている。

「そよ風と嵐」と題した今ひとつのカラトラバ腕時計4点セットも、やはりレマン湖の帆船と港を描いている。ホワイトゴールド

ドの文字盤に手作業による彫金(浮彫り)が施されている。これらのカラトラバ腕時計は、いずれも超薄型自動巻ムーブメント、キャリバー240を搭載している。

最後に「ネプチューン号」と題したドーム・テーブルクロックがある。ジュネーブの船着き場と、レマン湖の伝統的な帆船であるネプチューン号をブリカジュール七宝によって描いている。この技法はドーム型の金属表面に透かし彫りを施し、半透明の七宝で透かし彫りの部分を埋めていく技法であり、七宝は裏地で補強されおらず、光を透過する。ブリカジュール七宝はよく知られた技法だが、文字盤のようなサイズではなく、テーブルクロックのサイズで製作するには、175年の歴史を誇るパテックフィリップならではの円熟した技術が必要であった。

【前ページ】(左) クロワソネ七宝による装飾を施したドーム・テーブルクロック「ボル・ドール」。レマン湖で行われる「ボル・ドール」はヨーロッパ最大の湖上ヨットレースとして知られ、パテックフィリップ名誉会長フィリップ・スターン氏は、このヨットレースで7回にわたり優勝している。
【当ページ、および前ページ右(一部拡大)】パテックフィリップ初のブリカジュール七宝による装飾を施したドーム・テーブルクロック「ネプチューン号」。この技法は金属板に蜂の巣状の透かし彫りを施し、半透明の七宝で透かし彫りの部分を埋めていく技法。光を透過するため魅力的なステンドグラスのような効果を生む。